

九月三日

左大史小槻雅久上

〔宣胤卿記〕永正四年正月六日、中納言方到來宣下、

獻上

宣旨

實枝甲改本名了、如此後日書改之、藤原朝臣トハ必アルベシ、依上卿下知ニハ官姓名日書也、
請特蒙天恩因准先例改本名實枝可爲實胤之由被下宣旨事、

仰依請副款狀

右宣旨早可令下知給之狀如件改名事近代不及宣下存古儀歟

十二月廿七日

右少辨伊長奉

進上 中御門中納言殿

〔言繼卿記〕天文十三年六月二日乙巳、今日三條大納言實世卿改名實澄云々、世人云、世ヲ捨テスミニナラル、ト申云々、將シテ室ヲ失ヒ、十日頃遁世とて嵯峨二尊院へ出奔也、

〔大友記〕石松源五郎名ヲ返事

長尾ノ城ニ、秋月人數サシ籠ケル所ニ、石松源五郎ツメカケ、每度攻合ケルニ、一度モヲクレヲ不取、其忠功ニヨツテ、マダ郎等ナレドモ、ヤカタノ御前ニ召出サレ、隼人ニナシ玉フ、其後秋月トセメ合ケルニ、石松隼人ト名乗ケレバ、秋月勢、扱ハ源五郎ハ向ハザリケルゾ、一當ニ追散シテ寄カクル、石松爰ヲセンド、戰ケレドモ、敵事トモセズ、打テカ、レバ、石松支ヘカ子引退ク、サテモ石松、今度一戰ニウチ負シ事、隼人ニ名ヲ替シ故ナリトテ、下サレケル名戻シ、元ノ源五郎ニ成ニケル、カクテ重テ秋月ト戰シニ、件ノ源五郎ト名乗テ、ツイテイリケレバ、秋月勢フミトメズ、忽ニ敗軍ス、サレバ人ニ知レタル名ヲバ、替ベキ事ニアラズトコソ、皆人云ケリ、

〔松平記〕一去程に竹千代殿御成人之間、今川殿御前にて元服被成、義元一字を付被申、松平次郎